

【金抜き設計書の例】

従来の発注方式

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	明細単価番号	基準
A工	1	式				
B工	1	式				
C工	***	m			仕 1 号	
D工	***	m3			仕 2 号	
E工	***	m3			仕 3 号	
F工	1	式				
G工	1	式				
H工	***	箇所			仕 4 号	
I工	***	箇所			仕 5 号	

概略発注発注方式

D工、H工、I工を概略発注工として計上した場合

費目・工種・種別・細目	数量	単位	単価	金額	明細単価番号	基準
A工	1					
B工	1					
C工						
E工	***	m3			仕 2 号	
概略発注工	1	式				
概略発注工	1	式				
概略発注工	1	式			明 1 号	

概略発注工に含まれるD工、H工、I工は表示されません。
下位の工種がすべて概略工に含まれる場合は上位の工種、種別も表示されません。（この場合はF工、G工）

概略発注工を除く直接工事費に対する
率（％）は明細書に明示

請負代金内訳書については金抜き設計書に基づいて作成してください。

【数量計算書の例】

工事区分 (レベル1)	工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単位	数量	概略発注	摘要
□□工								
	A工				式	1		
		B工			式	1		
			C工		m	****		
			D工		m3	****	○	
			E工		m3	****		
	F工				式	1		
		G工			式	1		
			H工		箇所	****	○	
			I工		箇所	****	○	

概略発注工であることを数量計算書で明示